

ハワイ大学交流30周年 ハワイ大学との交流の歴史

30th Anniversary of the Program with University of Hawai'i

ハワイ大学交流年表

1980年11月 5日	ハワイ・カイルアにセミナーハウスを開設
1981年 1月 5日	第1期海外研修生として神戸女子大学文学部文学科英文学専攻の学生12名が1ヶ月のハワイ大学での研修に出発
1981年 7月 2日	ハワイカイルアのケオケア・プレイスにセミナーハウスを移転
1983年 3月24日	ハワイ大学と姉妹校提携
1984年 12月20日	故行吉 哉女理事長がハワイ大学から国際教育に対する貢献により表彰状と賞牌を授与される
1989年 6月14日	ホノルル市ヤングストリートにセミナーハウスを移転
1990年 11月 8日	行吉学園創立50周年記念式典に ハワイ大学総長アルバート・J・シモン博士を迎え記念講演を行なう
1995年 11月27日	ピーター・タナカ先生、ジュディ・エンジグ先生がハワイより表敬訪問
1996年 4月 9日	ハワイ大学マノア校クラウス・ホール内に「行吉哉女ルーム」が開館
2001年 9月21日	ハワイ大学主催20周年記念パーティ(於:カハラマンダリンホテル)
2002年 夏	家政学部管理栄養士養成課程の学生がクアキニ病院で実習開始
2006年 2月14日	ピーター・タナカ先生がハワイより表敬訪問
2006年 7月	ハワイセミナーハウスの全面改修工事終了
2006年 9月 7日	ハワイ大学主催25周年記念パーティ(於:ハレクラニホテル)
2007年 4月 1日	文学部英語英米文学科第1期セメスター・プログラム研修生出発

行吉哉女ルーム前の
哉女先生



初期の頃の授業風景

ハワイ大学交流の変遷



ボランティア活動の一コマ

ハワイ大学との交流は今からさかのぼること30年、1981年に本学文学部文学科英文学専攻の学生12名によりハワイ大学アウトリーチ・カレッジで1ヶ月間の英語研修が実施されたことに始まります。学園創設者の行吉 哉女先生は、学生を国外に送り、現地で充実した英語教育を受けさせ、世界を舞台に活躍できる女性を育てたいという強い願望を抱かれ、研修に先駆け1980年にハワイセミナーハウスを開設されました。

宝石のように美しいカイルアビーチの閑静な高級住宅地に最初のセミナーハウスはありましたが、すぐにハワイカイルアのケオケア・プレイスに引っ越しました。ハワイカイルアもまた高級住宅地にあり、入り江に面したセミナーハウスには自家用のクルーザーを係留できる船着場がありました。

ハワイ大学英語研修が30年という長きに渡って継続されてきた一番の要因は歴代の寮監の方々の努力です。皆様、骨身を削って研修生の世話を当たり、当初は朝・夕の食事、掃除、買出し、学生の心のケアに精力を傾けられました。

1989年にセミナーハウスは、ホノルル市ヤングストリートに移転しました。5階建てで約20人の研修生が自炊でき、談話室などを設えた本格的なセミナーハウスです。

1996年にハワイ大学構内のクラウス・ホール(Krauss Hall)に、本プログラムに心血を注がれた行吉 哉女先生の偉業を記念して「行吉哉女ルーム(Kaname Yukiyoshi Room)」が設置されました。行吉哉女ルームは最新の機器を揃えたマルチメディアAVルームで、空いている時を見つけるのが難しいほど頻繁に活用されています。

交流20周年を記念して、クアキニ病院に於いて家政学部管理栄養士養成課程の病院実習が新規に導入され、ハワイプログラムに新しい息吹が吹き込まれました。また、2006年には25周年を記念してヤングストリートのセミナーハウスが全面改修されました。機を同じくして文学部英語英米文学科となった同学科のハワイ大学セメスター留学プログラムが翌年開始されました。

交流30周年を記念して2011年9月2日にハワイ大学主催の記念式典が挙行される予定です。

交流年表 (姉妹提携等)

1983年	ハワイ大学(アメリカ)	2007年	チェンダラワシ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(イギリス)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1997年	フライブルク大学(ドイツ)	2010年	西安工程大学(中国)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2006年	ガジヤマダ大学(インドネシア)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	ピッツァー大学(アメリカ)	2011年	カリフォルニア州立理工大ポモナ校(アメリカ)

国際交流



教育研究活動

第2回サステナビリティ・スタディツアー(ベトナム・カンボジア)

2011年2月21日(月)～3月1日(火)



上智大学アジア人材養成研究センターにて、三輪氏にアンコールワットの説明を聴く



ザオ族の女性と学生との交流



かものほしプロジェクト・コミュニティファクトリー(縫製工場)の工房で働く女性たちの作業を観察する学生

今回のサステナビリティ・スタディツアーは、ベトナムとカンボジアで実施し、文学部神戸国際教養学科野口 和美准教授の引率のもと同学科の学生が参加しました。

到着直後、JICAハノイ事務所を訪問し、ベトナムでのプロジェクトの説明及び視察するイエンバイ市の栄養向上プロジェクトについて説明を受けました。

2日目は、早朝にハノイを出発し、300キロ先にあるイエンバイ市ルックイエン郡の保健局を訪問し、イエンバイ子ども栄養向上プロジェクトに関する説明を受けました。

3日目は、その保健局から2時間かけて、Dong Quan コミュニティ栄養回復センターへ行き、山岳民族のザオ族の家庭を訪問し、実際に栄養を考えた食事の作り方などの指導について、コミュニティのボランティア及び参加している女性にインタビューも行いました。

4日目は、ハノイの博物館などを訪問し、カンボジアのシェムリアップへ移動。

5日目は、シェムリアップで日本のNGO「かものほしプロジェクト」のコミュニティ・ファクトリーで草木染めの縫製工場で働く女性や農村家庭を訪問しました。午後は、上智大学アジア人材養成研究センターで、アンコールワットにおいて、観光開発と地域住民との対立、異文化理解などの関連で多くの問題があることをお話ししていただき経済発展と地域住民の生活のバランスをどのように両立させるのかという課題も知ることが出来ました。

6日目は、アンコールワットを見学した後、バスでプノンペンへ。

7日目は、ポル・ポト時代のツールスレン刑務所とキングフィールドを訪問した後、ワット・プノン(寺院)と王宮を訪問しました。

8日目は、JICAプノンペン事務所で、ジェンダー主流化プロジェクトの説明を受け、現地のNGOが運営するカフェ及び縫製工場を見学しました。

今回は新たにベトナムを訪問し、都市部の経済発展がめまぐるしい一方で、山岳部や地方での貧困状態を見ることによって、格差が激しくなっていることを学びました。学生は、各訪問先で積極的に質問をするなど、途上国の現状、特に都市部と山岳部の格差について、自分の目で確認出来たことと思います。

タイ・チェンマイ大学との「国際学生文化交流プログラムにおける覚書」を締結

神戸女子大学波田 重熙学長は、2011年1月10日にタイのチェンマイ大学において、国際学生文化交流プログラムにおける覚書に調印致しました。両大学の学生及び学術交流を促進することを目標とし、今後、学生及び教員の文化・学術交流が深まることが期待されます。



神戸女子大学古典芸能研究センター開設10周年

神戸女子大学教育センター(三宮キャンパス)にある古典芸能研究センターは、古典芸能に関する調査・研究、並びに社会への学的貢献を目的として、平成13年4月に開設されました。能楽(能・狂言)・近世芸能(浄瑠璃・歌舞伎)・民俗芸能に関する資料を備え、それぞれの分野研究はもとより、総合的な古典芸能研究拠点をめざし、今日まで発展してまいりました。開設10周年を迎えた、現在のセンターの概要を紹介します。

古典芸能研究センターの施設は、教育センターの2階にある資料室と事務スペースです。常時、数名の所員が在席して業務を行っています。



閲覧室内部

センターの運営は、センター長・専任研究員・兼任研究員で構成される運営委員会において審議されます。

センターでは、その設置目的を達成するため、次の事業を執行を行うことを「神戸女子大学古典芸能研究センター規程」(平成16年4月1日施行)で定めています。

- (1) 古典芸能に関する調査・研究及び成果の発表
- (2) 古典芸能に関する図書・資料の収集及び保管
- (3) 古典芸能に関する図書・資料の閲覧業務及び公刊
- (4) その他、目的達成に必要な事業

(1) 古典芸能に関する調査・研究及び成果の発表



センターにおける研究の先駆けは、前身の「能楽資料室」(平成6~12年、須磨キャンパス)時代から取り組んだ、「古典芸能データベースの構築と情報発信研究」という研究課題でした。本学所蔵資料の目録作成及びデータベースの構築を行ったことで、資料価値が増大し、学内外の教育・研究に大きく寄与することができました。この研究方向は、現在まで発展的に継続しています。また、年1冊刊行の『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』で成果を発表しています。

(2) 古典芸能に関する図書・資料の収集及び保管

センターの所蔵資料数は、整理を終えて公開中もしくは公開準備中のものも含め、以下のとおりです。

和装本	約 3,500冊	逐次刊行物	約23,500冊
洋装本	約15,000冊	その他の資料	約71,000点

特殊 コレクション	橋文庫(能楽資料)	檜書店旧蔵謄本版本
	吉田文庫(能楽資料)	喜多文庫蔵民俗芸能調査資料
	伊藤正義文庫(能楽・中世文学資料)	沖繩祭祀資料

センターでは、これらを総合的に見据えた上で集書計画をたて、新たな収集に努めています。なお、所蔵資料は、データベースもしくは紙媒体によって目録化し、順次公開しています。

(3) 古典芸能に関する図書・資料の閲覧業務及び公刊

センターの利用規程は次のとおりです。

閲覧場所…古典芸能研究センター閲覧室

※図書・資料の貸出は行わない

閲覧日時…月曜日～金曜日 午前10時～午後5時

※祝祭日、大学記念日その他臨時閉室期間を除く

閲覧方法…学生・社会人を問わず利用可能

ただし貴重書、喜多文庫未公開資料については、
本学図書館の利用規程に準ずるため、あらかじめ
センターに照会のこと

開設以来、この規程に則りセンターを利用した閲覧者は、平成22年度末で延べ3,874名です。その内、学内利用者は1,990名、学外利用者は1,884名です。

(4) その他、目的達成に必要な事業



ドナルド・キーン先生
(学園創立70周年記念特別講演会)

古典芸能の調査・研究と並ぶセンター開設の目的は、社会への学的貢献です。そのため、センターでは、古典芸能の魅力を広く啓蒙する活動を続けています。学外からも多彩な講師を迎え、オムニバス形式の特別講座や、講演会・シンポジウムを

継続して催しています。また、年間約3回の常設展のほか、コスモス祭(大学祭)への参加、あるいは講演会などのテーマに因んで開



催する特別展も積極的

に行っています。そして、

こうした活動の蓄積が、『古典芸能の舞台 神戸』(平成21年、非売品)、『近松再発見』(平成22年、和泉書院)刊行で実を結んでいます。



「浄瑠璃と近松」展
(公開シンポジウム「近松再発見」関連展示)

平成13年10月、センターの開設を記念する講演会「文化の世紀」に登壇した故伊藤 正義初代センター長は、センターが、知的活動の発信基地となるためには、閉鎖的な大学研究所ではなく、開放的な文化センターとしての施設をめざし、他大学との連携とともに、一般社会に対して「知」の還元と発信を弛まず続けることが重要だと述べました。このメッセージを胸に、古典芸能研究センターは今年10年目、更なる前進をします。

第25回管理栄養士国家試験合格者発表 合格率87.2%
神戸女子大学 瀬口 正晴教授の発明 特許として登録される



第25回管理栄養士国家試験合格者発表 合格率87.2%

平成23年5月9日(月)に第25回管理栄養士国家試験の合格発表がありました。
家政学部管理栄養士養成課程の卒業生159名のうち156名が受験し、136名が合格、合格率は87.2%でした。
全体の受験者総数は19,923名、合格者数8,067名で合格率は40.5%、このうち管理栄養士養成課程新卒者の
受験者総数は7,702名、合格者数は6,320名(合格率82.1%)でした。

神戸女子大学 瀬口 正晴教授の発明 特許として登録される

神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程 瀬口 正晴教授の発明が
特許として登録されました。

特許第4695105号	発明者	瀬口 正晴
発明の名称 『カステラ用小麦粉の製造方法』	出願番号	特願2007-034648
特許権者 長田産業株式会社 学校法人行吉学園	出願日	平成19年2月15日
	登録日	平成23年3月 4日



瀬口 正晴教授

特許について瀬口 正晴教授の説明

ある日、ある企業の方がいらして、それまで小生が進めていた研究の一面を気付かせてくれました。さらに若いヒトの力を借りて、懸命にそれをこじ開けた結果がこの特許(特許)のような感じがいたします。この特許の中には食品加工、食品貯蔵、更には分子生物学の分野のこれからの研究糸口がたくさんつまっていると思われ、あと何十年間か後にもこの中のテーマは引き継がれてゆくか、あるいはねむっているか、何れにしても人間社会の、特に食生活をレベルアップする上で必要な化学的な新しいセオリーが潜んでいる分野と思います。

パンの歴史が6千年と言われ、パンではなく小麦粉となるともっと古いかもしれません。長い人間の歴史の中でこの小麦粉との付き合いは、経験につぐ経験であり、サイエンスのメスが入ったのはつい最近で、この特許のベースもそのメスの一振りです。本学の研究意気も次第に上向いていて、若い先生方も育ってきていると思います。この特許などもその一端の様な希望的観測です。

本発明は品質の極めて不安定なカステラの品質を、小麦粉の改良処理によって安定化し高品質カステラを製造することを目的とする発明です。そのための小麦粉改良処理は、小麦粉の長期間の室温放置、及び120℃等の高温での短時間乾熱処理を行うものです。こうして調製した改良小麦粉を用いてカステラ製造を行うと、極めて品質の安定したカステラの製造が可能になりました。本発明はこのようにカステラの品質を一定にコントロールできる小麦粉製造を目的とするものです。その学術的内容は、

1)Chieko Nakamura, Masaharu Seguchi: "Improving Effects of Stored Wheat Flour on Pancake Texture" Food Sci. Technol. Res., 13(3):221-226, (2007)(2)Chieko Nakamura, Yosiki Koshikawa and Masaharu Seguchi: "Effects of Changes Due to Storage on Kasutera Cake Volume" Food Sci. Technol. Res., 13(4):351-355, (2007)(3)Chieko Nakamura, Yosiki Koshikawa and Masaharu Seguchi: "Increased Volume of Kasutera Cake (Japanese Sponge Cake) by Dry-Heating of Wheat Flour" Food Sci. Technol. Res., 14(5) 431-436 (2008)
に纏められています。"

平成23年度 科学研究費補助金採択状況

文部科学省は、平成23年度の科学研究費補助金について、新規分と継続分を合わせて応募総数127,403件のうち63,310件を採択しました。本学の採択件数は大学21件(継続13件、新規8件)、短期大学1件(継続1件)でした。

種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究(B)	文学部・教授 大谷 節子	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究
基盤研究(C)	文学部・教授 永測 朋枝	婦人雑誌にみる文学・ジェンダー・メディアの交差 -藤村「処女地」執筆者調査より-
基盤研究(C)	家政学部・教授 上野 勝代	ドメスティック・バイオレンス被害女性のためのシェルターの空間改善に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 栗原 伸公	カプサイシン、ジンゲロールによる高血圧発症・進展予防とその機序
基盤研究(C)	文学部・教授 松下 孝昭	近代日本の都市地域社会と市政 -大阪・京都・神戸の比較研究-
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 津田 理恵子	懐かしさを活用した支援 -回想法の実践を通じた生きがいの追求-
基盤研究(C)	文学部・准教授 小原 依子	リハビリテーション病院等における音楽療法の効果判定に関する実践的研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 瀬口 春道	亜鉛・ビタミンE、Cの複合摂取による血圧上昇及び血管肥厚抑制効果
基盤研究(C)	文学部・教授 狩野 恭	ジュニャーナシュリーミトラ「主宰神論」の研究
基盤研究(C)	文学部・教授 今井 修平	畿内近国小藩領における大庄屋機能の研究 -播州福本藩領鶴野金兵衛家の活動を中心に-
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 曾田 里美	児童養護施設におけるライフストーリーワーク実践に関する基礎的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 瀬口 正晴	グルテンフリー膨化食品の研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 堀田 久子	柑橘類搾汁残渣の有効利用について
基盤研究(C)	文学部・教授 木下 由紀子	世紀転換期における形而上的文化交流の形 -岡倉天心とヴァージニア・ウルフの芸術観
基盤研究(C)	文学部・准教授 山内 晋次	硫黄流通からみた古代・中世の日本とアジア
基盤研究(C)	文学部・教授 大橋 喜美子	幼保一体化に向けた保育カリキュラム・モデルの構築
基盤研究(C)	家政学部・教授 山根 千弘	ナノ食品 -木質パルプから構造制御されて得た機能性食品材料-
挑戦的萌芽研究	文学部・准教授 園田 節子	中国移民の移動ハブ地における史料の残存と蓄積の調査研究
若手研究(B)	文学部・准教授 橋本(船木) 礼子	方言文法の視点による推量表現の変化に関する研究
若手研究(B)	文学部・非常勤講師 鎌谷 かおる	日本近世における内水面の漁業権に関する基礎的研究
若手研究(B)	健康福祉学部・助教 松本 衣代	インドネシアにおける小児肥満予防/改善教育健康プログラム開発の試み
若手研究(B)	幼児教育学科・准教授 畠山 由佳子	市町村における「家族維持を目的とした児童虐待在宅支援実践マニュアル」の開発的研究

※ゴシック文字は今年度新規採択(8件)

大学院情報(論文の概要)

<課程博士>

軸丸 清子(神戸女子大学大学院文学研究科教育学専攻) 指導教員:前田 研史教授
論文題目「サイコセラピューティック・ナーシングの構想—実践と教育に関する研究—」



本論文は、筆者の看護学と臨床心理学の知見・技法を統合させて患者のケアに当たった看護と教育の実践を「サイコセラピューティック・ナーシング(Psychotherapeutic Nursing)」(以下、PTNと略す)という視点から、その意義と役割・機能、それを可能にする教育のあり方について検討し、構想としてまとめたものである。

序章は、現代医療における看護の問題点と専門的な心の看護の必要性について述べた。第1章は、PTNの基本的枠組みと本論文での検証の視点、第2章は、脳損傷による重篤な後遺症を抱えた患者の尊厳ある「生」を支えるPTNの意義、第3章は、死から逃れることのできない病を抱えた患者の尊厳ある「死」の看取りにおけるPTNナースの役割と機能、第4章は、身体疾患に心理的問題を併発した患者の看護へのPTNに基づくスーパービジョンの意義を明らかにした。第5章では、PTNを提供できる看護師を養成するための教育のあり方を明らかにするために、筆者が大学看護学科でPTNを念頭において行ったヒューマンケア教育の効果を評価し、第6章で、その教育を受けた実践看護師の実践における効果を分析した。最終章第7章では、ここまでの検討からPTNを構想として明らかにした。

教養科目情報

神戸女子大学 全学共通教養科目「キャリアに学ぶ」で理事長、学長が講義を行う

神戸女子大学の全学共通教養科目では、企業をはじめ様々な分野で活躍している先輩女性にそれぞれの経験を語っていただくことにより、大学生活の4年間、その後の人生計画まで含めたライフプランを考えることを目的とした、新入生対象の授業、「キャリアに学ぶ」を開講しています。今年度、受講している学生は須磨キャンパスとポートアイランドキャンパスあわせて約200名です。

今年度から神戸女子大学の目指す女子教育の主旨と歴史を学び、女子大生としてのアイデンティティーをもつことも念頭におき、理事長、学長による講義を全15回の冒頭に取り入れ、神戸女子大学の学生としての自覚を促す内容の講義を加えました。



行吉理事長 講義風景

行吉 誠之理事長が須磨キャンパスで4月18日(月)、ポートアイランドキャンパスで4月19日(火)、「行吉学園の歴史と建学の精神」という題目で本学園と神戸女子大学の歴史と創設者である行吉 國晴・哉女夫妻の女子教育への信念、熱意について講義しました。

続いて、波田 重熙学長が、須磨キャンパスで4月25日(月)、ポートアイランドキャンパスで4月26日(火)に、「大学で学ぶということ」という題目で、学問研究の場であり、社会に出る前の最終的な教育の場であり、さらに豊かな教養を身につけた人間を育成する場である大学で、より充実した大学生活を過ごすためにいかに意欲的に「学ぶ」かについて講義しました。



波田学長 講義風景

神戸女子短期大学 教養科目「心理学(女性の教養としての心理学)」[学長講座]開講

今年度から、「心理学(女性の教養としての心理学)」を、建学の精神や教育目標、女性の生き方なども織り込んだ学長講座にしています。平成23年度前期の受講生は237名でAVホールが満員になる人気の講義となっています。

長瀬 莊一学長は、心理学が日常生活に生かされている実際を取り上げ、心理学を使って好ましい人間関係や社会生活ができるための基礎編を15回にわたり講義しています。

人間の深層心理、性格診断の心理学、笑いの心理学など、学生が知りたくなるテーマ満載で、心理テストを含めた90分があつという間に過ぎていきます。その中で「自立心・対話力・創造性」など、神戸女子短期大学の特長や教育目標が解説されています。



長瀬学長 講義風景